

## ●季節は梅雨、そして夏へ向かって...

ジメジメとして蒸し暑い季節がやってきましたが、雨の恵みを受けて、植物も成長していきます。

### ○雨に染まる、あざやかな紫陽花(アジサイ)



ガクアジサイ

●梅雨の時期に思い浮かぶのは、やはりアジサイですね。園内のあちこちにありますが、旧正門から中山台方向に向かってたくさん咲いています。一般的にアジサイと呼ばれるものの原種がガクアジサイです。

土壌の酸性度によって、青から赤まで色が変化しますがリトマス試験紙とは逆で、酸性が青くなるそうですよ。



①アジサイ



- ①アジサイ
- ②大賀ハス
- ③ヘメロカリス
- ④ハンゲショウ
- ⑤コブシ
- ⑥フジ

### ○可憐で美しい大輪の大賀ハス

●公園の夏の風物詩、大賀ハス。1950年、千葉市で約二千年前の地層から発掘、発芽したため、「古代ハス」とも呼ばれますが、発掘した大賀一郎博士から、大賀ハスと名付けられました。



②大賀ハス

現在、3000㎡のハス池一面に咲くたくさんのハスは、1975年に千葉市からいただいた2本の根から増えたものなんですよ。

【鑑賞のポイント】お昼には概ね閉じてしまうので、9時頃までに見るのがオススメです。



### ○この時期に咲く野草

●湿地に生えるハンゲショウ。公園では鯉池の中に植栽しています。白い花に見える部分は葉で、この時期に半分だけ白くなるため「半化粧」の名がついたという説と「半夏生」(=黄経100度の点を太陽が通過する日)に花が咲くことからその名がついた説もあります。



ハンゲショウ

●丘陵地に咲く「虎の尾」ことオカトラノオ。小さな花が綺麗です。野草園などを探して見ましょう。湿地に生育するヌマトラノオという種類もあります。



オカトラノオ

### ●ハスの花の寿命は4日間

・1日目はとっくり型、2日目はお椀型に満開、3日目は色があせてきて閉じても半開のまま、4日目には散ってしまいます。残った中心の花托が成長して大きくなり、たくさんの実をつけ、茶褐色の果托となります。採取して乾燥させた果托は、管理棟にて1つ50円で販売しています。ちりめんやビー玉などを詰めたり、アレンジ次第でインテリアとしても楽しめますよ。



### ○ハスと一緒に楽しめるヘメロカリス

●ハス池の隣には、あざやかな黄色のヘメロカリスがたくさん。花が1日でしぼんでしまうことから、ギリシャ語の「ヘメロ=1日」「カリス=美」が名前の由来となったそうですが、1つの花茎からたくさんの花を咲かせるので、長い期間楽しめます。野生種であるニッコウキスゲやヤブカンゾウと同じ仲間ですが、ヘメロカリスは園芸種でその種類も多種多様です。



③ヘメロカリス

### ●この実なんの実?

・花が終わったあとの樹木で、この時期に実を付けるフジとコブシ。フジはマメ科なので、実もそれっぽいですね。コブシの実は、名前の由来にもなっているように、握りこぶしに似てるんですよ。



⑥フジの実



⑤コブシの実

## ●貴重な梅雨の晴れ間は、のんびりてくてく公園散歩でリフレッシュしましょう!

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索